

植物紹介 -山査子-



撮影：東京理科大学薬草園(4-5月)

引用：日本薬学会より サンザシ(偽果)

基原植物 サンザシ *Crataegus cuneata* Sieb. et Zucc.

またはオオミサンザシ *Crataegus pinnatifida* Bunge var. *major* N.E. Brown

科名・属名 バラ科サンザシ属

薬用部位 果実(偽果)-山査子

10月頃の完熟少し前に偽果を採取して天日干ししたもの

用途・処方

消化吸収を助ける作用があり、消化不良、下痢、瘀血による疼痛などに用いる。
健胃、消化、整腸薬として。—加味平胃散、啓脾湯など
二日酔いや食中毒に用いられることもある。

形態学的特徴 中国原産の落葉低木。葉は互生で、葉の縁には荒い鋸歯。

子房は下位、2—5心皮、果実はなし状果で、裂開しない。

フラボノイド、トリテルペン、タンニン、フェニルプロパノイド等を含む

- ・9—12月の長い間、紅葉中も落葉後も実が枝に残る。もとは黄色く、秋に赤色に熟す。
- ・通常サンザシは棘のある枝がよく分岐するが、オオミサンザシには棘はない。
- ・4—5月に開花することから、近縁のセイヨウサンザシは別名メイフラワーと呼ばれている。花は白く散房花序。
- ・オオミサンザシは名の通り、大きな実をつける。

サンザシは、山査(サンザ)の実(クサボケの偽果)に味が似ていることから名がついた。

参考文献 https://www.pharm.or.jp/flowers/post_13.html 日本薬学会 サンザシ